

2014.4 オートルートスキー記録

記 鳥切昇治

期 日:2014年(H26)4月12日(土)~4月23日(水)

メンバー:鳥切 昇治 他2名(AGツアー)

ガイド:ウオルター氏(国際山岳ガイド) 山保浩司氏

ルート:ヨーロッパアルプス オートルート (フランスルート:シャモニー~ツェルマット)

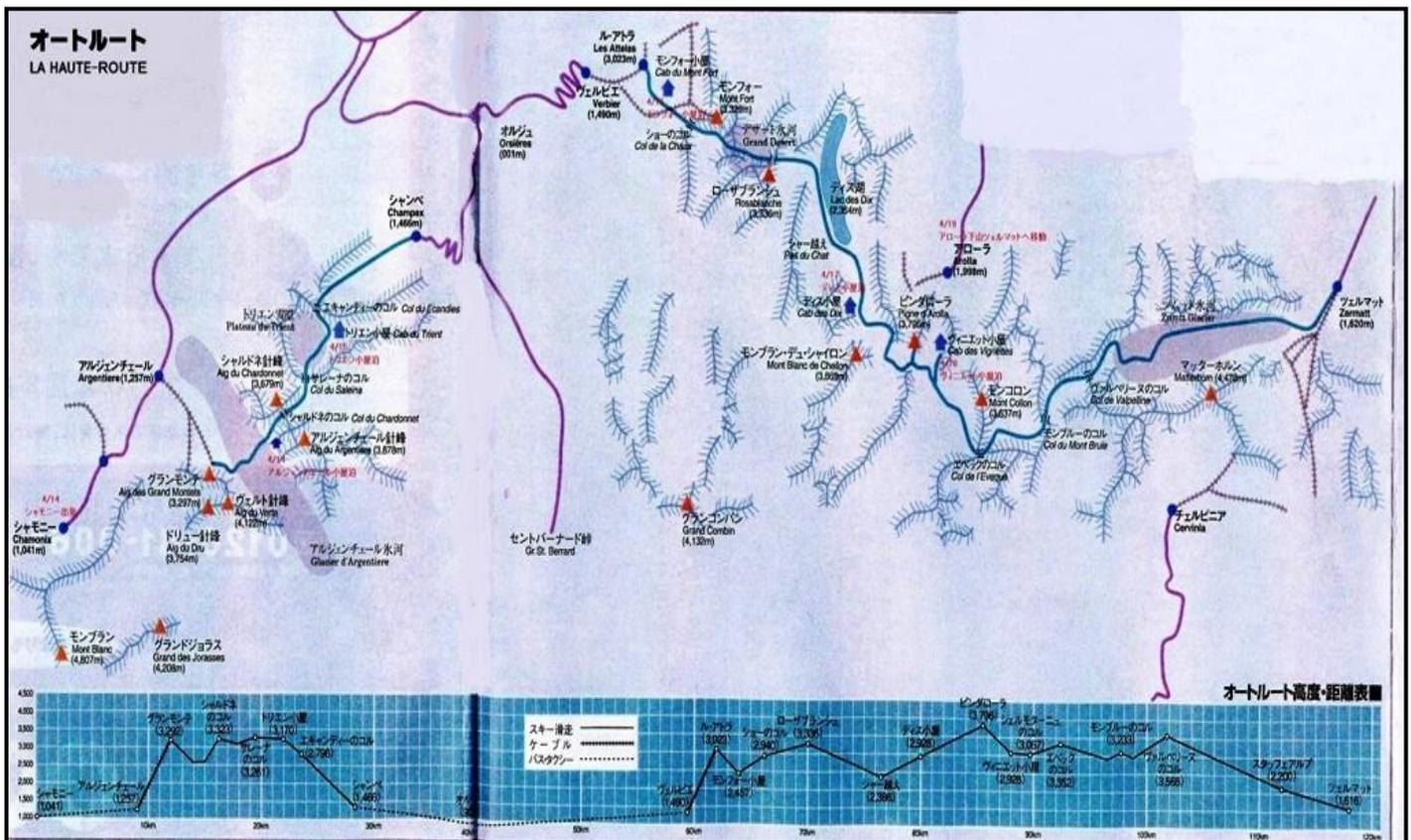


はじめに

オートルート(フランス語で高い道の意)は、BCスキーヤーにとって憧れのツアーコースである。以前から申し込みをしていたが機会に恵まれず、70歳代に入り、もう無理と諦めていた。2月25日、思いがけず参加しないかと打診を受けた。散々迷った末、惨めな結果になるかも知れないが参加することに決めた。

ツアーは天候に恵まれ、5日目予定通りヴィニエツト小屋に入ったが、午後から天候が悪化し雪が降り続き翌朝になっても止まず、ガイドの判断で最終日はエスケープルートのアローラに下山、バスと電車を乗り継いで終了地のツェルマットに入った。残念ですが完走はなりませんでした。

翌朝は予想外の快晴となりモンテ ローザ(4634m)のヘリスキーを楽しむ機会を得た。昨日までの降雪でパウダースノーを味わう事が出来、私のBCスキー人生でも最高の一日となった。



4月12日(土) 晴 出国~ウイーン経由~ジュネーブ~シャモニー

大船発7時13分の成田エクスプレスに乗るべく本郷台駅へ行くと、線路内安全点検で電車が停まっていた。電車が動き出した時には、予定した成田エクスプレスには乗れず、1時間遅れの成田エクスプレスで成田空港に向った。関係箇所と連絡を取り乗れる手筈を整えたが精神的に落ち着かない。

成田空港に着いてKカウンターで待つ内田さんに会い、宅配荷物を受け取り、搭乗手続きを無事済ませることが

出来、胸をなでおろす。

機内で他の二人と顔を合わす。乗り継ぎのウーンまで約11時間半のフライト。ジュネーブ行きの際に乗り継ぎ1時間半程で到着。荷物を受け取るターンテーブルに行くとアルプス・プランニング・ジャポンの神田さんが待っていて、テキパキと対応してくれる。外に出てガイドの山保さんと合流。神田さんの車でシャモニーに向う。

高速を走って1時間程でホテルに到着。3人部屋に入り落ち着く。日本との時差は-7時間(サマータイム)。宿泊ホテルはグルメ&イタリー。

コースタイム

自宅 6:40—本郷台 7:25—大船 8:08—(成田エクスプレス15号)—9:58 成田空港 11:23—(OS052 便)—16:04 ウーン 17:45—(OS575便)—19:10 ジュネーブ 19:55—21:00 シャモニー

4月13日(日) 晴 足慣らしにバレエ ブランシュを滑る

オートルートの足慣らしと高度順化のためバレエ ブランシュを滑る。出発前、オートルートの装備(ハーネス、ビーコン、クロー、アイゼン、シール)のチェックを入念に受ける。

エギーユ・デュ・ミディ(標高3842m)へ上がるロープウエー乗場は日曜日とあって混雑していた。3842mの



3842mの山頂から滑走地点に下る

山頂に着いて外を覗くとバレエ ブランシュへ下りて行く人達がアリの行列の様だった。子供連れも見られる。スキーをザックに付けアイゼンを着けずにアンザイレンしてから下降



エギーユ・デュ・ミディ山頂へ上がるロープウエー



針峰群に囲まれ快適に滑る

する。滑走準備を整えスタート。上部は雪の状態が良く、針峰群に囲まれ快適に滑る。下方に滑るに従い氷河のクレバス等の制約でルートが狭くなる所はゲレンデと同様コブコブの状態である。氷河のセラック帯の眺めも素晴らしい。メールド グラスに入ると露岩が多く注意しながら滑る。ドリュエ針峰が右手に聳え立つ。左手の登山



氷河のセラック帯まで滑って来た

電車のモンタンバール駅から降りて来るゴンドラと階段が見えて来ると滑走終了点も近い。滑るコースも岩が多くスキーが可哀想。氷河見物用の階段脇に到着。ここは標高 1400m。標高差 1300m 余りを滑って来たことになる。



メールドグラスも近い



聳え立つドリュー

天候に恵まれて楽しいスキーであった。スキーをザックに付け階段をゴンドラ乗場まで登る。辛い登りであった。登山電車のモンタンバール駅でしばし休憩。滑って来た氷河、ドリューを眺める。最高の展望台である。

登山電車でシャモニーへ下る。

駅近くのレストランで遅い昼食を食べてからホテルに戻る。明日からいよいよ不安と期待のオートルートが始まる。

コースタイム

ホテル 9:10—ロープウエー乗場 9:40—エギーユ・デュ・ミディ 10:20—スキースタート 10:35—12:30 スキー

終了点(モンタンバール駅直下 1400m地点) 12:45—(階段上り・ゴンドラ)—13:10 モンタンバール駅(1913m) 13:30—(登山電車)—13:50 シャモニー(1030m)—(レストランで昼食)—15:45 ホテル



シャモニーの登山電車乗場に到着

4月14日(月) 晴 オートルート第1日目:シャモニー～アルジェンチエール小屋

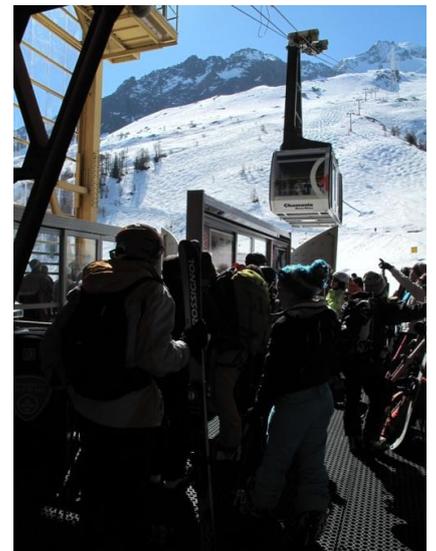
ホテルから歩いてスネルスポーツ裏手のバス停からバスでグランモンテスキー場へ向う。ロープウエー乗場はシーズン中の様に混雑していた。ロープウエーを乗り継いで



グランモンテ(3295m)山頂で(後方はモンブラン)

エーを乗り継いでグランモンテ頂上(3295m)まで登る。トイレを済ませハーネスを着けてから階段を下る。

階段下(3225m)でスキーを履く。アルジェンチエール氷河へ向けてスタート。右方へトラバースしながら



ロープウエー乗場は混雑していた

滑る。雪面が硬くスピードが出易いので横滑りを入れながら下って行く。ボーダーのTさんが苦戦している。氷河に近くなってからトラバースから氷河に向って滑る。ガイドのウォルターが一気に滑って行った。



アルジェンチエール氷河へ向って滑る

私は雪質がクラスト状態なので、安全を期して山保さんに続いてトラバースしながら雪質が安定している所を



アルジェンチエール氷河で休憩

探し氷河上へ滑り込む。氷河上で大休止。氷河上流に向って左の崖上にアルジェンチエール小屋が見える。休憩後、ここでビーコンの探索訓練を行う。



アルジェンチエール小屋へ最後の登り

氷河を横断しシールを着けてアルジェンチエール小屋(2771m)へ登る。小屋は建て替えられたのか？まだ新しい。氷河側はテラスになっていて靴とシールを干す。

眺めが素晴らしく、氷河の奥にグランドジョラス北壁が聳えている。夕食時、唯一見かけた60代の日本人夫妻と話を交わす。ニューヨークに住んでいてオートルートが忘れられず、今回が二度目だそうだ。

コースタイム

ホテル 9:15—(バス)—9:40 グランモンテスキー場—(ロープウエー)—11:00 グランモンテ(3295m)—階段下(3225m)スタート 11:30—12:15 アルジェンチエール氷河上(2680m) 13:10—13:58 アルジェンチエール小屋(2771m)



氷河側はテラスになっていて眺めが素晴らしい



氷河の奥にグランドジョラス北壁

4月15日(火) 晴 オートルート第2日目:アルジェンチエール小屋〜トリエン小屋

ハーネス、アイゼンを着けて小屋を出発する。雪面は硬くアイスバーン状態。小屋下のアルジェンチエール氷河まで下りてスキーに履き替え、シャルドネ氷河の末端(2550m)まで滑る。先行パーティが次々にシャルドネ氷河を登



取付きが急で、アイゼンで登る



スキーにシールとクートを装着、コルに向けて登る

って行く。取付きが急でアイゼンに履き替え傾斜が落ちる所(標高差で約 250m)まで登る。スキーにシールとクートを装着、コルに向けて登る。風が結構強くて寒く感じる。コル直下の吹き溜まり状の所で休憩、アイゼンに履き替える。



シャルドネのコル(3321m)に到着、ここからザイル下降



サレーナのコルへ向って滑る

シャルドネのコル(3321m)に着くと先行パーティがザイル下降をしている。まだ10名程が順番を待っている。コル直下の氷河までおよそ100mある。ザイル2本繋いでも足りない。時間が



氷河までザイル下降

掛かって、ウォルターが手伝い出した。風が吹き抜けて寒い(ここで風邪を引いてしまった)。1時間ほど待って我々もザイル下降。1本のザイルに託して岩と雪のミックスした溝を下降する。ザイルを緩めるタイミングと合わないとバランスを崩す。ザイル一杯まで慎重に下り、ハーネスからザイルを外して氷河(3321m)まで下りる。全員が集結して滑走に入る。左方へ高度を下げないようにトラバース。再びシールを着けて登り始める。サレーナのコルへクートを着けて最後の急斜面を登る。



サレーナのコル(3261m)へ登る

コルまであと少しと言う所で、方向転換の際バランスを崩し転倒しそうになる。疲労が出て来ている。ガイドにスキーを外してもらい、コルまで登る。サレーナのコル(3261m)から広大なトリエン氷河の滑走に入る。トリエン小屋が見えて来て広い大斜面の中、登りにかかる所まで直滑降。そこからシールを着け、トリエン小屋へ最後の登り。



サレーナのコルから広大なトリエン氷河を滑る



シールを装着しトリエン小屋へ最後の登り



トリエン小屋に到着

トリエン小屋は石造りの立派な建物。ここはもうスイス。テラスから眺めるトリエン氷河が雄大だ。疲れたのでゆっくり休養する。



石造りの立派なトリエン小屋



トリエン小屋の夕暮れ

コースタイム

アルジェンチエール小屋 7:15—7:40 シャルドネ氷河末端 7:52—8:35 スキーに履き替え 8:50—11:05 コル下 11:25—11:40 シャルドネのコル 12:40—(ザイル下降)—スキースタート 13:05—13:20 シール装着・登り 13:35—15:10 サレーナのコル 15:25—15:40 シール装着・登り 15:50—16:15 トリエン小屋(3170m)

4月16日(水) 晴 オートルート第3日目: トリエン小屋～モンフォー小屋

今日の行程は、シャンペと言う村? に下り、送迎車で移動、ゴンドラ・ロープウエーでスキー場内の小屋に入る。

トリエン小屋から昨日登って来た斜面を滑り、トリエン氷河に出て右手の方に回り込む。右の方へトラバース気味にエキャンディーのコル下に横滑りで滑り込む。アイゼンに履き替え、標高差50m程をアンザイレンして



エキャンディーのコル下にトラバース

登る。コルでアイゼンを外す。右の方へトラバースしながら雪質の良さそうな斜面をガイドが探し、滑って行ったが難しい雪質だったので慎重に滑る。傾斜が落ちた所から開放的な谷へ滑り込む。



トリエン氷河に下りエキャンディーのコル下へ滑る



エキャンディーのコルから滑走スタート



樹林帯まで滑って来た

30分程滑って露岩の所で小休止。振り返ると雄大な山々に囲まれた中を滑って来た。更に谷に沿って滑って行くと樹林帯に入り、リフト乗場があるシャンペに着いた。待つ間もなく神田さんが運転する送迎車が来た。



神田さん運転の送迎車で移動する

送迎車でチャブルの町へ移動する。途中、コープに寄ってもらい行動食、水を仕入れる。山麓は緑が目に見える。チャ

ブルには鉄道が走っている。駅の所がヴェルビエのスキー場へ上がって行くゴンドラ乗場になっている。程近いレストランまで送ってもらい、神田さんと別れる。昼食にピザを注文したのだが、生地が厚くて大きく半分しか食べられなかった。食欲旺盛なTさんに助けもらった。



ゴンドラでヴェルビエに上がる



スキー場の奥に明日登るショーのコルが見える

ゴンドラでヴェルビエに上がると広大なスキー場が眼前に広がる。ゴンドラ、ロープウエーを乗り継いでロープウエー山頂駅(2950m)まで上り、スキー場内にあるモンフォー小屋(2457m)まで滑る。モンフォー小屋はコースから少し離れた見晴の良い所に建っていて、テラスも広く中もきれいだ。4フランで2分間、温水シャワーが使えると言うので早速利用する。シャワーを止めて使えるので2分間でも十分だった。サッパリし、リフレッシュ出来た。

コースタイム

トリエン小屋 8:15—8:25 エキャンディーのコル下 8:40—8:50 エキャンディーのコル(2793m) 9:05—10:38 シャンペ 10:59—(車で移動・COOPで買物)—12:00 チャブル(昼食) 13:20—ゴンドラ乗場(821m) 13:30—ヴェルビエ 経由—ルイネッテ 14:00—14:30 Col des Gentianes 山頂駅(2950m) 14:50—15:05 モンフォー小屋(2457m)

4月17日(木) 晴 オートルート第4日目:モンフォー小屋～ディス小屋

今日は長い一日となる。モンフォー小屋からシールを着け、スキーゲレンデを歩く。満月と思われる大きい月が我々を見つめている様だ。日の出を迎えて遠くにモンブランが赤く染まって来た。



朝のモンフォー小屋



朝日に染まるモンブランと月

ショーのコル直下は滑り易く、クローを着け登る。ショーのコル(2940m)でシールとクローを外し、少し登ってからスキーを履く。ここから右側の斜面を、トラバースしながら下るので、横滑りを入れながら慎重に滑る。200m程高度を下げ、再びシールとクローを着け登る。アップダウンを繰り返して行く。



ショーの科尔(2940m)から滑走スタート



アップダウンを繰り返したラバース

ローザ ブランシュの科尔(3177m)まで登る。テントが張ってあった。数日後にスキートレイルがあると言う。科尔から滑るルートは急斜面で、雪が緩んでいるので何とか滑れそう。ガイドに続きジャンプターンで下る。



ローザ ブランシュの科尔へ登る



ローザ ブランシュの科尔(3177m)に到着

この急斜面を逆コースから登って来る人達もいる。露岩があるので注意して滑る。氷河に下りてからデイス湖



ローザ ブランシュの科尔から急斜面を滑る
畔まで快適に滑る。ここで大休止。暑いのでコートを脱ぎ草むらに座り込む。デイス湖畔を逆コースから大勢の人達が歩いて来る。



デイス湖畔まで滑って来た



デイス湖(ダム湖)



デイス湖畔を延々とトラバースする

シールを着けデイス小屋に向け出発。デイス湖畔のトラバースルートは夏道の様で雪が消えている箇所もある。右側の山からのデブリは、今年は少ない様だ。スプリットボードのTさんは大変そうでボードを担いで歩き出した。小休止した際、雪が消えた草原に「おきな草」が咲いていて目を和ませてくれる。



雪が消えた草原で小休止



おきな草が咲いていた

長いトラバースを終え、右からの谷を越える時、U字の窪みで前のめりに潰れてしまった。しばらく歩いてからデイス小屋へ標高差500mの登りにかかる。次第に日が傾いて寒くなって来た。



トラバースして来たデイス湖畔を振り返る



デイス小屋へ登る



モンブラン・デュ・シャイロンを見ながら登る



辛い登りが続く



登りが終り、シールを外す



眼下にデイス小屋が見える

モンブラン・デュ・シャイロン(3869m)を見ながら登る。しだいに疲れが出てきて少しずつ遅れ始める。ガイドが地図と高度計の3100mから登るのを止め、小さな尾根を回り込んだ所でデイス小屋の場所を確信した様でシールを外す。疲れからか動作が緩慢でガイドの助けを借りてしまった。トラバース気味に滑って行くと眼下にデイス小屋が見えた。登り過ぎていたようだ。

小屋の前へ滑り込む。小屋まで虫の息で登る。中に入ると夕食の真最中。そのままテーブルに着いて食べ始めるが、食欲が出ず途中で3Fの部屋へ行って寝る。

コースタイム

モンフォー小屋 6:15—8:15 ショーのコル(2940m) 8:25—10:45 ローザ ブランシュのコル(3177m) 11:05—12:00 デイス湖畔 12:40—15:25 シール装着・15:35—18:20 シール外し 18:30—19:00 デイス小屋(2928m)



デイス小屋(2928m)

4月18日(金) 曇・ガス・風雪 オートルート第5日目:デイス小屋～ヴィニエツト小屋

昨夜の体調も朝には良くなり、朝食をしっかり摂る。朝食の際、ガイドから今日の行程は短い为天候が次第に悪くなりそうなので早めに出発したいと言われ、準備をして外に出る。確かに怪しい雲が広がって来ている。氷河の雪原まで滑り下り、シールとクローを装着して出発する。



デイス小屋外で出発準備

なだらかなになった所で小休止。周りの景色がガスで見えなくなって来た。風が強く雪も舞っていて寒い。

なだらかな氷河を詰めて行ってから左側に回り込むように登って行く。次第にガスに覆われるようになる。



デイス小屋下でシールとクローを装着



なだらかな氷河を詰め左方へ登る

傾斜がきつくなった所でアイゼンに切り替える。急斜面を登り切り、再びシールに切り替え登る。ビンダローラ頂上の肩に着いた様だが、ビンダローラ(3796m)は見えない。少し下りシールを外す。強風雪の中、物が飛ばされない



右に折り返して登りが続く



ビンダローラ(3796m)に向って登る

様注意して行う。ガスの中、滑走に入る。視界が悪いので前を滑る人との間隔を保ち滑る。クラストしているので注



風が強く雪も舞っていて寒い



正面の急斜面をアイゼンに替え登る

意してターンする。左の方へトラバース気味に滑って行く。晴れていれば快適なスキーを味わえそうな斜面で、見えないうがヴィニエツト小屋が近いと言う。

露岩の間を通り左の斜面に上に出る。急斜面のいやらしい



ビンダローラの肩から少し下った所でシールを外す

所をガイドが横滑りで下りて行く。アイスバーンで所々に雪が固まっている。Sさんが腹這いになっている脇を抜け、キックターンをしようと右足を反転させた時、バランスを崩して谷側に転倒。数回転してから背中ザックで滑落止まる。ガイドが外れた右足のスキーとストックを持って来てくれる。幸いケガやダメージはなかった様だ。ドジなことをしてしまった。不用意にキックターンをってしまった。疲れていたのであろう。

鼻の下のすり傷、左肩と左膝の打撲はあるが、滑ってみると問題無さそうで、ホッとする。又あつてはいけないので安全運転で滑る。ヴィニエツト小屋は岩峰の裏にあると言う所を左の谷側へ回り込む。岩峰の下を右に少し登りトラバースするが、山保さんが安全のためザックを持ってくれる。無事ヴィニエツト小屋に到着。ガイドに迷惑を掛けてしまって申し訳ない。

ヴィニエツト小屋は日本では考えられない様な場所に建っている。内部もきれいで設備も整っている。昼前に到着したので昼食を食べる。ここは飲物、食事とも他の山小屋より安くておいしいと言う。シーフードリゾットを食べたがおいしかった。窓外は大荒れの様で視界が全くない。小屋の中は天国だ。



ヴィニエツト小屋に到着

部屋でゆっくり休養する。夕食時、3人パーティの内、2人が天候悪化で引き返す際、小屋に戻っていないそうで、ガイド達が捜索に行っているとのこと。夕食後に聞いて驚いたことは、夕食に使ったお皿をガイド達が拭いて片付けているそうだ。凄いことだが日本では考



夕食のスープとスパゲッティー

えられない事だ。明日はツェルマツトへ向う最終日。天候回復を願い寝床に入る。イビキを気にせず寝られますように...

コースタイム

デイス小屋 6:25—6:30 デイス小屋下(シール・クート装着)6:45—9:00 小休止 9:07—9:20 アイゼン装着 9:30—10:05 スキー・シール装着 10:15—10:55 ビンダローラ頂上直下(3776m) 11:05—11:40 ヴィニエツト小屋(3160m)

4月19日(土) 雪 オートルート第6日目: ヴィニエツ小屋～アローラヘエスケープ～ツェルマツ

朝、視界が悪く雪も降っている。ヴィニエツ小屋も雪化粧をしている。朝食時、エスケープルートのアローラへ下ることに決まり、残念だがオートルートの完走は出来なくなった。

昨日の降雪量が多く雪崩の危険もあり、ラッセルをとまなう行程は厳しいのでガイドの判断として

- ① 天気が奇跡的に好転し、今晚の積雪量も少ない場合はツェルマツに予定通り向かう
- ② 今晚の積雪量が少なく、また、翌日の積雪量も少なく、翌々日天候が回復する予報 の場合、小屋に延泊し翌々日にツェルマツに向かう
- ③ 今晚の積雪量が多い場合、雪崩の危険もあり、ラッセルをとまなう行程は厳しいので、アローラにスキーで下り、公共交通機関を利用しツェルマツへ移動する
- ④ アローラに下った後、ベルトール小屋に上り返し、翌日ツェルマツに向かう

最終的に③をウォルター が選択、アローラへ下るのが最良とガイドが判断した。

続々と宿泊していた人達が滑り下りて行く。小屋周辺で30cm以上は積っている。雪が軽そうに滑って行く。我々もスタートする。視界が悪く、雪面がホワイトアウト状態で良く見えないので前の人を視界に入れながら滑る。



ヴィニエツ小屋から新雪を滑る

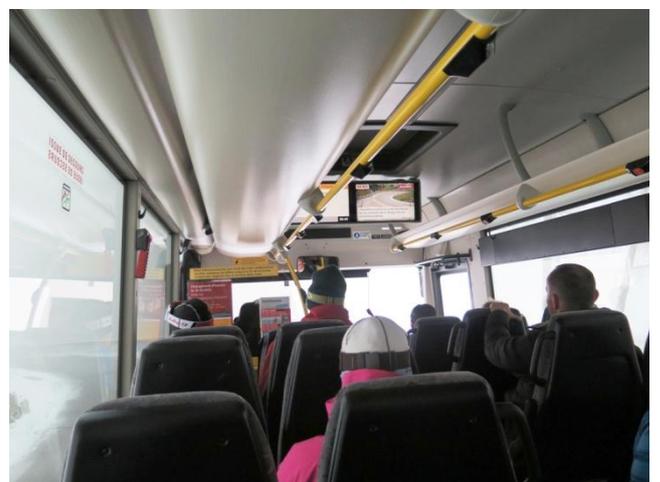
コースは左の方へ回り込む様に滑って行く。

下るに従い、雪は軽いがその下がアイスバーン状で厭らしい。岩も隠れている様で慎重に滑る。

沢筋を滑って行く。ヴィニエツ小屋から次々と出発して行くくとスキー場が見えて来た。右の針葉樹林に入ると素晴らしい粉雪だった。



30cm程の新雪を慎重に滑る



ポストバスで州都のシオンまで行く

スキーを脱いで少し登りスキーコースに出る。整備されたゲレンデを滑ってアローラに到着。ヴィニエツト小屋をスタートしてからまだ1時間も経っていない。程なくポストバスが来て乗り込む。麓もガスが垂れ込め、雪が降っている。1時間程で州都のシオンに到着。電車でフィスプへ向う。フィスプでツェルマツト行きの電車に乗り換える。シオンは降っていなかったが、車窓からはどこも雪が降り続けている。



シオンから電車でフィスプへ向う



フィスプでツェルマツト行きの電車に乗り換える

ツェルマツトに12時前に到着。雪の駅前は初めてだ。今回のオートルートスキーは終わった。完走できなかったことは残念である。

ウォルターと別れ、COOPで買物をしてからタクシーでホテル アルタミスに入った。ホテルは教会から左に折れ、川を渡って山へ登って行く道沿いにある。綺麗なホテルでシャモニーのホテルより良い。

コースタイム

ヴィニエツト小屋 7:30—8:20 アローラ 8:30—(バス)—9:35シオン9:56—(電車)—10:26フィスプ10:43—(電車)—11:52 ツェルマツト(1620m)

(ホテル アルタミス泊)



ツェルマツトは雪で10cm程積っていた

4月20日(日) 晴 ツェルマツト滞在

(モンテ ローザ ヘリスキー)

朝カーテンを開けると青空にマッターホルンが目に見え飛び込んできた。早速カメラを持って外に出る。昨日の天気が嘘の様な快晴である。山保さんから電話でモンテ ローザヘリスキーは如何?と即座にOKする。二度とないチャンスである。9時にタクシーでホテルを出発、ヘリポートへ行く。

ヘリに搭乗したのはそれから約1時間後だった。ヘリの着陸は、モンテ ローザ(4634m)の下4030m地点であった。フライトは10分程で、ツェルマツトの街、マッターホルン、モンテ ローザが窓外に見えた。風も無く



ヘリに搭乗する



4030mの着陸地点で歓声を上げる



モンテ ローザ(4634m)を背に最高で一す

快晴、左程寒さは感じない。身支度を整え、スキーを履いて滑走準備完了。

ガイドの注意事項を聞いてスタート。雪が軽い。パウダースノーを味わいながら滑る。息が切れる。息を吐きながら



パウダースノーを味わいながら滑る



マッターホルンを見ながらご機嫌で滑る



ガイドの後を、間隔をあけて滑る



氷河の危険箇所を滑る

滑るんだとガイドに言われていても息が切れる。

滑っても、滑ってもパウダースノーは続く。皆で歓声を上げる。先に滑って行った人達のシュプールに沿って、左のリスカム(4527m)の下方へ導かれる様に滑って行く。氷河が狭まってクレバス帯を慎重に下る。左斜面のトラバ

ースが続く。広い雪原に出て再びブライトホルン下の左斜面のトラバースとなり、マッターホルンに向かって滑る。堰堤の所まで滑って来て終了となる。



広い雪原に出て、終了地点も近い



フーリのバス停からマッターホルン

スキーを脱いで少し登り吊橋を渡って滑って行くとスキーコースに出た。コース途中にあるレストランに入る。バルコニーで素晴らしかった今日のスキーの余韻を楽しむ。ガイドのウォルターが、モンテ ローザスキーで今日の様なコンディションは年に2~3回しかないと言っていた。

昼食後、スキーコースを滑ってフーリのバス停からバスと徒歩でホテルに戻った。

コースタイム

ホテル 9:00—(タクシー)—9:10 ヘリポート 9:50—(ヘリ)—10:00 モンテ ローザ(4030m地点) 10:10—11:40 ゴルナー氷河合流点付近(2680m)—(大トラバース)—14:00 フーリ(昼食) 15:00—15:20 フーリバス停 15:30—15:50 ホテル

4月21日(月) 晴・曇 ツェルマツト滞在(休養)

最終日の朝、ガイドの案内でスネガ〜ロートホルン〜テーシュ〜ツェルマツトのBCスキーに行くと連絡を受けたが、私は疲れもありホテルに留まって休養することにした。二人が出発した後、スキー、靴など荷物のパッキングをしてから、おみやげを買いに駅前まで行く。

おみやげ店「Wega」の店主ニシナガさんと話をする。エベレストで雪崩遭難がありシェルパなど16名が死亡・不明、近藤さんの隊もシェルパ1名が亡くなったと言う。ニシナガさんはAGの近藤さん、古谷さんをヨークご存知でした。ツアーから戻って来た山保さんから電話があり駅前まで行く。ウォルターが次の仕事でツェルマツトを離れると言う。お世話になったお礼を言う。

最終日の夕食を教会近くのレストランで、チーズフォンジュを食べることになった。そこで最悪の失態をしてしまった。食後、急性アルコール中毒症状をおこしてしまった。アルコールに弱い私は、チーズを溶かすのに使ったワインで酔ってしまい、失神、嘔吐、発汗でダウン。外に出て体を冷やし、水、紅茶を飲んでようやく歩けるようになりホテルに戻った。マイリマシタ。

4月22日(火) 曇・晴 帰国(ツェルマツト〜ジュネーブ〜ウイーン〜成田)

早朝、タクシーでフィスプに出てジュネーブ行きの電車に乗る。ジュネーブで山保さんと関空へ向うTさんとお別れする。ウイーンで乗り込んだOS051便の乗客は、ほとんどが日本人だった。

離陸後横の座席の二人が、別の座席に移ったのでゆっくり休むことが出来た。

コースタイム

ホテル 5:11—(タクシー)—5:46 フィスプ 6:06—8:30 ジュネーブ 10:40—(OS572便)—12:10 ウイーン 13:20—(OS051便)—6:50 成田

4月23日(水) 晴 帰国(成田～自宅)

成田に定刻より40分も早く到着したが、スーツケースが出て来たのが最後の方だった。税関検査を通る時に「検査申告書」の提出を求められ、記載して提出したら最後の一人になってしまった。

荷物を宅配に預け、成田エクスプレスで自宅に向った。

コースタイム

成田 6:50 着

成田 8:13—(成田エクスプレス6号)—10:18 大船一本郷台—自宅

以上